

第1回まちづくり講座企画運営会議 議事録

日時：H22年7月20日、午後7～9時

場所：練馬まちづくりセンター

出席：（区民）石倉、伊東、阪西

（練馬区）嶋田、阿部

（まちセン）石川、駒井、中島（敬称略）

1. 今年度まちづくり講座の実施について

まちセンから報告

2. 先月実施したアンケートについて

まちセンから報告

3. 今年度のまちづくり講座の企画についての議論

●アンケート結果を概観して感じる事

・特に区西部に関係するが、「みどり」はやはり重要なキーワードだと改めて感じる。対して区東部では交通をめぐるテーマなどが中心か。

・区東部では、駅前広場が無かったり、小さい駅が多い印象がある。そこから広がるまちも、密集して道が狭いといったところが多くあり、駅周辺の印象がそうした地域の様子を代表している感がある。

・子育てなどを通じて、暮らしの中での具体的なまちとの関わりの中で強く感じるのは、実際の地域で具体的に起きていることを知ることが、まちづくりを考える上でぜひ必要ではないかということ。伊波ローニャ市では、市民が「必要なモノ・コトは自分たちでつくる」という意識が高く、そうやって自分たちの暮らしの中でまちをつくってきたという自信と誇りを持っているという。練馬区もそうあってほしい。それには、「練馬で生きていく」とはどういうことなのか、といったことを実感する必要があると思う。具体的には、地域に根差した生業に触れる機会、体験が必要ではないかと思う。

●「地域」×「テーマ」＝講座企画というまちセンの提案について

・具体的な地域というワクを設定して企画するのはよいと思う。

・練馬区は、農地やみどりなど、西部のイメージで語られる傾向が強いと感じる。なので、東部の地域に注目すると、隠れた地域資源の発見や、地域の新しいスタイルなどが見出せるのではないかと。

- ・狭い地域内で、遊び感覚でまちを見るような取り組みも面白いのではないか。
- ・みどりに代表される区西部の特徴は、かつて旧緑地地域に位置づけられていたことによる面も大きい。例えばそういった背景のことなども、講座企画の素材になるのではないか。
- ・地域にこだわるのはいいが、講座企画としては、その地域の外の人にも関心、理解を得られるものにする必要があるだろう。
- ・地域を話題に取り上げるならば、基本的なおさえとして、まちの成り立ちということも視点として必要なのではないか？→地域の長老に出てきてもらって話を聞くこともよい
- ・ある地域の人しかわからない、対象としていないような講座にしてはいけない。必ず、「取り上げた地域以外の練馬の別の地域ではどうなっているか？」という視点が重要。
- ・練馬区では生業が見えなくなっている。ものを生産する場として、まちや地域をどのように捉えるかということは重要である
- ・練馬で働く、商売をするという視点もある

●企画の具体的アイデア、今後の進め方等について

- ・ねりまでのまちづくりを担う人とは誰か？を念頭に、講座としてのそもそもの狙い、目的とするところや対象とする受講者像等の明確化、絞り込みが必要。
- ・まち歩きやWSを子どもと一緒にやることで新たな視点が獲得できるかもしれない
- ・講座の方法として、対談や鼎談といったやり方、専門家等を講師にするのではなく、一般の方を演台に上げて、聞き役がインタビューしていくなどの方式も考えられる。
- ・今回のアンケートの回答者は、まちづくり活動の実践者が主なので、活動をしていない人、したことが無い人の声もきく必要がありそうだ。
- ・今年度は新たな体制、進め方での初めての試みの中で講座を企画実施していくということに重要な意味があるので、丁寧に議論をしていい企画を実現すべき。まちセンが提示した案では、今年度は10月から4回程度の開催を予定したいとのことだが、開始時期が少し遅れてもやむを得ないのではないか。
- ・アンケート結果と今日の意見を参考に、まちセンで企画案のたたき台を用意してはどうか。次回はそれをみんなで議論すれば、より具体的な企画づくりができる。

4. 次回の日程調整等

- ・企画運営会議の議事録をHPにアップする
- ・8月中に今日の議論を受けてセンターで内容を整理し、今年度のまちづくり講座の企画案をつくる
- ・その案を、本日の参加者に報告し、次回企画運営会議の日程を決める
- ・アンケートは継続実施していく（内容は多少変更することも念頭に入れる）

(以上)